

2019年
2月号
NO. 0078

カトリック笹丘教会
教会ニュース

福岡市中央区笹丘1-16-1
TEL761-4504 fax761-4524
広報委員会

福岡教区2019年の目標「信じる喜びから伝える喜びへ」

固有の召命



主任司祭 遠山満

昨年暮れに、一人の信者さんが亡くなり、年内に通夜・葬儀ができなかった為、新年明けてから執り行うこととなりました。通夜並びに葬儀は、その信者さんが入院しておられたホスピスで行われました。葬儀ミサと告別式が終わり、出棺の時、ハプニングが起こりました。霊柩車の置かれていた場所が、私が駐車していた一般の駐車場と隔たれていたのです。私は、通常、葬儀ミサ終了後、霊柩車の後について火葬場へ向かいます。けれども、この時は、出棺直後から霊柩車の後について行くことが叶わなくなり、どうすれば良いか迷ってしまいました。結局、駐車場から出て、直ぐ近くの道路上で霊柩車が通過するのを待つ事にしました。10分経ち、15分経ちましたが、霊柩車は一向に通過しません。この時、霊柩車が、違う道を通っていったのだと思い始めました。それでは、どのようにして、火葬場まで行くのかが次の問題となりました。火葬場までのルートは、沢山ありました。どのルートを通って霊柩車は走ったのだろうと考えてはみたのですが、思い浮かびません。また、このような事を考えているうちに、時は経過して行きます。結局、火葬場へ向かえば良いのだと言う考えが浮かびました。「どのようなルートでも良いから、兎に角、火葬場へ向かおう」、そう思い、都市高速を使って火葬場へ向かいました。そして、そこで他の皆さんと会う事ができました。

今年二月、日本の教会は、召命の為に祈るよう、私達に願っています。召命と言う時、私達は専ら、司祭・修道者の召命の事を思い浮かべます。しかし、召命は、司祭・修道者の召命に限らず、信徒の召命もあります。更に、それぞれの召命の中に、固有の召命と言うものがあります。それは、司祭・修道者であれ、信徒であれ、それぞれの立場で、更に一人一人に与えられた召命があるのです。そのように考えれば、私達の歩く召命の道は、一人一人異なることとなります。その道の途上で、他の人達から逸れてしまったと考える事もあるかもしれません。けれども、そのような時、私達は、私達の召命の最終目的地、天国の事を思い浮かべましょう。道から逸れてしまっていると思える時には、他の人に助言を乞いましょう。「天国に行くには、どのようにすれば良いでしょうか」と。途中で別れ別れになっても、そこで皆で再会できるように努めて参りましょう。

カトリック笹丘教会 拡大信者会議事録

開催日時：2019年2月3日（日）11:50～12:50

開催場所：信徒会館ホール

司会：畠山 書記：牧山



† 始めの祈り—日本二十六聖人殉教者への祈り

1. 今年の小教区目標について

福岡教区の目標「信じる喜びから 伝える喜びへ」を小教区目標とする。具体的な取り組みについては、より多くの人に意見を出してもらうためにアンケートを行い、3月の拡大信者会で検討し決定する。福岡教区の目標は、フランシスコ教皇様の使徒的勧告「喜びに喜べ」に基づいており、今年には教皇様の来日が予定されている。そのことも意識して考えてはどうかとの意見あり。

2. 2019年度総会について

(1) 日程 5月12日に決定。

(2) 役員選出

自薦、他薦で投票してもらい、後日推薦された方と現役員で相談し、総会に諮る。投票用紙には役職のみを印刷し、推薦したい方の名前を役職の横に書いてもらう。福岡地区信徒協担当 畠山真理男さんと福岡地区女性の会担当 川原圭子さんは留任予定。

投票は、小教区目標のアンケートと合わせて2月中に行う。

(3) 行事予定

10月13日堅信式

3. 笹丘小教区信徒会（信者会）「規約」について

規約作成のための委員会設置も視野に、班の見直しや役員選出の方法など、新役員で1年かけて取り組んでいく。

4. その他

- ・3/2（土）9時より信徒会館ホールのワックスかけを行いますのでお手伝いを。
- ・教会の駐車場が満杯に。下の幼稚園グラウンドの手前にも駐車できるよう神父様の了解を得た。



† 終わりの祈り—主の祈り



私の祖先 私を創った人々のルーツを語る

———— その6 ———— (2017.6月号よりつづき)

匿名希望

2年前、このコーナーに数回に亘って私自身の「信仰のルーツ」を掲載させていただきました。しかし実際には父方の祖父善之助爺さんの話で終わってしまいました。そして今回、広報委員の方から思いがけず再度の寄稿の依頼をいただき、とても嬉しく思いました。一方でキャラクターの濃い私の一族の話を、笹丘教会の皆さんが喜んで読んでくださるのか、悩みました。しかし私に依頼してくださった広報委員の方への感謝を込めて、再び寄稿させていただきますことにしました。

2年前に掲載させていただいた内容の要約です。私の祖父善之助は明治22年外海町黒崎に生まれました。善之助2歳のとき、父吉次郎はド・ロ神父様の勧めで家族で田平に移住します。成人した善之助は結婚式の直前に百姓を嫌って長崎に家出し、三菱造船所で働きながら家庭をもち、生涯を長崎で終えました。というのが簡単な内容です。今回は善之助の次男で、私の父、知（さとる）のことを書かせていただきます。

昨年末、教皇フランシスコが今年末頃に日本を訪問するというニュースが流れた。それを聞き、私は38年前に教皇ヨハネ・パウロ2世来日のことを思い出した。

1981年2月、ヨハネ・パウロ2世が教皇として初めて日本を訪問した。来日したその日の夜、家族で夕食を食べながらニュースを観ていたときのことだった。父がテレビの画面を観ながら突然叫んだ。「ゼノさんやっか！まあだ生きとったか！」

私は驚いて、固まったままの父の顔とテレビの画面を交互に観た。画面には、車椅子に乗った一人の高齢の外国人と、腰を屈めて彼を抱擁するパパ様の姿が映っていた。老人は「パーパ、パーパ」と言いながら泣いていた。私は父に「お父さん、このおじいさん知っとると？」と聞いた。父は画面を凝視したまま「知っとるもなんも……。そうか、まあだ生きとったとか」とつぶやくように言った。 【うらにつづく】

父は昭和4年、3男2女の5人兄妹の3番目として生まれた。自宅は父善之助が働く三菱造船所の近くで、すぐ近くに教会もあった。戦前の造船所には外国人の技術者も多く働いていて、彼らのために様々な西洋の品物を扱う店も数多くあった。父から聞いた話では、当時近所に西洋人相手のパン屋があり、週に一度ほど焼きたてのパンを買って朝食に食べるのが何より楽しみだったそうだ。2歳年上の長兄とともに旧制海星中学校（現海星高校）に通ったが、父は勉学より野球に夢中になっていた。やがて戦争が始まり、ある日登校すると外国人の神父様や先生方の姿が一人残らず消え、代わりに軍人が教壇に立って言った。「外人たちは全員昨夜熊本の収容所に移った。ここはアーメン（キリスト教）の学校で、対岸には造船所があり兵器を造っているが、生徒の中にスパイがいるかもしれない。よって、今日からこの学校は軍が監視する」確かに学校の対岸には三菱造船所があり、当時は一般市民の目から隠すため、稲佐山の頂上にも届くほどの巨大な塀があり、中では戦艦「武蔵」が造られていた。窓際の席の生徒がうっかり窓の外に目を向ければ、たちまち軍人がその生徒に向かって声を荒げる。「貴様、今造船所の方を見ただろう！貴様はスパイか！立て！」そして問答無用で生徒を殴りつける。また、「天皇陛下とキリストはどっちが偉いか！」と突然問われ、少しでも答えに躊躇すると、立ち上がれなくなるほど殴られる。何もかも無茶苦茶だった。

当時通学には小型の渡船を使っていて、大波止で船を降りていた。父は兄と数人の海星中学の生徒とともに通っていたが、毎日船が大波止に着くたびに、神経を張り詰めた。そして数日に一度、仲間の一人が発する言葉にいつも身を硬くした。「やばい、ゼノさんがおるぞ！」

大波止の岸壁で、にこにこ満面の笑みで船を待つ、白い長い髭のポーランド人修道士ゼノさんの姿があった。そして、手には粗末な紙を二つ折りにしたチラシのような「聖母の騎士」の束が握られていた。【次月につづく】





行事報告

1月20日(日)新年会 今年もよろしくお願いします!

信じる喜びから伝える喜びへ



今年は参加者が少なかった
ようです。インフルエンザ流行
のためでしょうか?



笹丘ファミリー合唱団 アーメン・ハレルヤ

∞∞∞ヨセフ青田憲司神学生ありがとうございました∞∞∞

昨年4月より笹丘教会で司牧実習をされていた青田神学生は1月20日で実習を終えられました。来る3月21日(木・祝)助祭叙階式が長崎浦上教会にて行われます。この叙階式を見届けることなく1月18日にお父様が帰天されました。お父様の永遠の安息とヨセフ青田憲司神学生の助祭叙階を祝福し、お祈りいたしましょう。霊的花束を贈りましょう。詳しくは聖堂の後ろのテーブルをご覧ください。



学院祭で院内を案内する青田神学生



教会学校クリスマス会

最後にカードのプレゼント



あっという間の1年間でした。笹丘教会での経験をこれからの司牧に役立てていきたいと思えます。一年間、本当にありがとうございました。

お詫び

(1/21以降は訂正済みのものをお配りしています)

先月1月号教会ニュースの行事報告の欄に誤りが2か所ありました。

初聖体：マキシミアの→マキシミアノ

新成人：右側の4名正面向き写真 一番左の女性

アリアテレジア上尾夏海(なつみ)→アグネス染野瑠樹(るな)

関係者の皆様に大変不愉快な思いを抱かせましたこと深くお詫び申し上げます。(西山)

編集後記

パパ様が、今年の末に訪日される事を表明された。2代前教皇、聖ヨハネ・パウロ2世が来日された1981年2月、私は誕生した。当然母はパパ様に会いに行けなかったのだが、その日の長崎は、史上初めての猛吹雪、会場は一面銀世界で、容赦なく降りしきる吹雪に頬を打たれ、寒さに震えながらの御ミサであったと聞いている。同じ年の5月13日、パパ様はヴァチカンのサン・ピエトロ広場で銃撃され、瀕死の重症を負った。フランシスコ教皇もまた、常に危険にさらされているのである。パパ様の来日表明を機に、今まで以上に共同体で丸となって教皇様の為に祈っていく必要性を強く感じた。また、教皇様を迎えるに当たって準備を進めている司教団、司祭方の為にもたゆまず祈っていききたい。(A.S)